



歴史講座「地形図と地形模型が語る乙訓の近代史 一大地を平面に描き、平面を立体化して探る地域 のすがたー」を開催しました

- 期間 平成30年6月17日（日）午後2時～4時
- 場所 向日市文化資料館 研修室
- 講師 上杉和央 さん（京都府立大学文学部准教授）
- 内容 律令制のなかでの口分田や江戸時代の伊能忠敬による測量図、明治政府の地図測量事業など、測量の歴史を紹介するとともに、地図から読み取れる乙訓地域の特徴について、説明がありました。
また、国土地理院のウェブサイトから作成することができる3Dの地理院地図についても紹介があり、立体的な地形図から地域を見る視点について説明がありました。

地形図から見る乙訓地域の特徴

- 西国街道：主要地区を結ぶ配置から、地域拠点の集落を結び、人や物が行きかう幹線道であったことがわかります。
- 官設鉄道：都市間を結ぶ「高速」道。集落内ではなく、集落の近くに駅が敷設されているのが地図から読み取れます。
- 丘陵：向日丘陵は西側の急斜面部分以外はほぼ全体が竹林で、タケノコ栽培に代表される地域の暮らしに関わる土地利用であったことがわかります。



向日市文化資料館 歴史講座
「地形図と地形模型が語る
乙訓の近代史

—大地を平面に描き、
平面を立体化して探る地域のすがた—



■日 時 平成 30 年
6月17日 (日)
午後2時～4時

■講 師 上杉和央先生
(京都府立大学文学部准教授)

■会 場 向日市文化資料館2階研修室

■定 員 80名(事前申込み制)

江戸時代の伊能忠敬に
よる測量図の歴史から説きお
こし、明治時代以降の乙訓地域の地形
図をもとに、地図から読み取れる地域の歴史
と移り変わりをわかりやすく解説する。

地形模型についても最新の技術を紹介し、
平面から立体に視点を変えることでわかる
大地と人々の歴史を語る。

【お申込み方法】

向日市文化資料館へお電話(075-931-1182)、FAX(075-931-1121)、
お名前・ご住所・お電話番号をご記入ください)、またはご来館
にてお申し込みください。定員に達し次第、締め切ります。

※手話通訳をご希望の方は、6月10日(日)までにお申し込みください。